

夏に除雪のはなし?

先月号のこのコーナーでは、平成15年度に市民の皆さんから市役所に寄せられた「市民の声」（以下「声」）の概要をお知らせしました。その中で、市役所に寄せられる「声」の第1位は「除排雪」についてでした。では、具体的にはどのような内容が多いのでしょうか。

今月号は、その主な内容と対策について紹介します。

●「除排雪」に関する「声」の9割が「置き雪」

Q せっかく、朝早く起きて玄関前をきれいに除雪したのに、除雪車が大きな雪の塊を置いていきました。私の力では移動させることができません。どうにかしてもらえないでしょうか。

A 除雪車は降雪10cmを基準に年間15～20回程度出動しています。その度に、道路の雪が各家庭の玄関前などに残ってしまい、ご迷惑をお掛けしていることは認識しています。

どうしたら、置き雪を少しでも減らすことができるのか。市民主体の組織「雪対策市民協議会」を中心に昨年からの引き続き今年の夏も検討しています。

協議会では、細い道路については出動基準を現在の降雪10cmから15cmに変更し出動回数を減らすことによって置き雪の回数が減るのではないだろうかという意見や、除雪に要する1回当たりの費用は約1,500万円程度なので、たとえば出動回数を減らし、その費用で置き雪

の処理をするという意見も出されています。

今後は、そのような協議会からの意見などを参考に、置き雪を少しでも減らし冬期間の暮らしをより快適なものにしていきたいと考えています。

●このような「声」も多く寄せられています

Q 自宅の前の道路に路上駐車をしている車があるため、除雪のときに障害になって困っています。

A 冬期間の路上駐車は、円滑な除雪作業の妨げになります。また、道路の幅も狭くなることから交通渋滞や事故などの原因にもなります。このような迷惑駐車を減らすために、平成10年に「石狩市冬期迷惑駐車等の防止に関する条例」を制定し、ほかにも、モデル町内会の協力を得て巡回するなど迷惑駐車を減らすように努めています。さらに、常習性があるなどの悪質な場合には、警察に「路上駐車の取り締まりの強化」などを要請するなどして対応をしています。

Q 家の前の歩行者専用道路の脇に花壇を作っていましたが、冬期間の除雪によって壊されたので市で直していただけますか。

A 基本的には歩行者専用道路などの道路用地内に木材で囲ったり、またはブロック等を置くなどして花壇を作ることは危険であり、冬期間の除雪などの妨げになりますのでやめてください。

しかし、あらかじめ道路用地内に設置されている植樹等においては、道路美化などの観点から町内会や近所の方によって花などを植えていただいています。

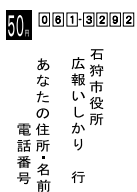
除雪車の障害になるものには道路上に伸びた庭木の枝などもあります。また、縁石などの乗り上げに使用する段差解消のプレート（鉄板や木材）もそのままにしていると危険です。雪が降る前にお手入れや片づけをお願いします。

除雪・排雪・雪対策市民協議会に関するお問い合わせ
維持管理課 ☎72-3142 ijikanri@city.ishikari.hokkaido.jp

大募集!!

毎月の締切は前月の5日です

広報紙への感想や批評、市への質問など何でもお寄せください。イラスト・写真(ともにオリジナル作品に限る)も大歓迎です。匿名希望の場合も名前、住所、電話番号を必ず明記してください。



TEL (0133) 72-3153

FAX (0133) 74-5581

Eメール PR@city.ishikari.hokkaido.jp

句歌歳時記

【俳句】

汐風にはまなすの紅深うせり 笠原泰江

遊歩道品川ハギの風にゆれ 三浦利子

風青し縄文徳ぶ砂丘館 唐沢礼子

【短歌】

清水の仏足石は横に向き

歴史の跡を残しさびけり 白洋子

アカシヤの老いたる庭木を手当てすも

花を咲かせず季の過ぎ行く 中村タキ

初めてのパークゴルフに汗すれば 佐藤友企子

血の巡りよく気分爽快

市民レポート

育児中はどうしても家にこもりがちなママたちですが、自身も育児の真っ最中という金子さんは、積極的にまちへ出て、子育てを楽しんでいます。



▲お友達と行くのも楽しい。棚田さん親子(写真左)と住谷さん親子(右)
※写真中央は金子さん親子です

今月のレポーター かね こ 金子 ゆう こ 祐子さん

「ママの味方、子育てサロン」

子どもを授かって1年半。「かわいくてかわいくてどうしよう」という反面、慣れない育児と急激な環境の変化にストレスをためる日も多くありました。昔と違って、今は洗濯は洗濯機がしてくれずし、布おむつが面倒くさければ紙おむつ、離乳食が作れなくてもベビーフードが豊富にあります。便利な育児グッズも数知れず。これで何がストレスだ、と先輩ママにしたらそれそうです。物が豊かな時代になった分、近所同士のコミュニケーションはほとんどなくなり、現代では核家族の中、孤独な育児生活を送っているママたちが多い

現代ママたちの悩み

今年春、花畔2条1丁目とオーブンした、0〜3歳児と親のための子育て広場『りとりきつず』へ遊びに行きました。ここはママも楽しめる子育てサロンで、子どもを遊ばせながらお茶のひとときを過ごせます。専任のスタッフ(午前・午後合わせて約4人)の方が一緒に子どもと遊んでくれるので安心です。スタッフの方を媒介としてママ同士、気負いなく親しくなれます。そのほか、お誕生日会やクラフト作り、絵本に英語、ママにはなんとエステまで企画されているようです。



▲ママがお茶できるくつろぎスペース

子育てを楽しむゆとりを！

そのような気がします。そんな子育てママの味方になってくれる施設の一つとして、子育てサロンがあります。新米ママはもうご利用になられたでしょうか。子どももあんなにできるよになると、おうちの中だけでは退屈するので夏は公園が活躍しますが、冬や雨の日などは外遊びも大変です。そんなとき、お友達と遊べて楽しい遊具がある子育てサロンの存在は大助かりなのです。

このほか、市内には楽しみながら子育てをサポートしてくれる施設が何カ所あります。母親になると自分の時間がなかなか持てませんし、仕事をしたい育児休暇中は、子どもを預けてまで自分の時間を作ることに罪悪感を感じることもあります。そこで、子育てを楽しみながら少しだけ息抜きをさせていただきに子育てサロンに足を運び、気分転換できたら、「明日も育児頑張ろう、どんな様に八つ当たりしないように気をつけよう」という気持になれるのではないのでしょうか。



◀優しいスタッフの方々。
佐藤さん(写真左)と川村さん(右)



遊具があるキッズスペース▶